

# 日本とアメリカのカップルの性役割

## Gender Roles in Japanese and American Couples

セジュン・チョン  
Se-Joon Chung

82-372: Advanced Japanese II

### 1. はじめに

日本人とアメリカ人の性役割はデートから結婚までどう違うか？私は、日本は性役割が確実に区別されていたと聞いたので、実際にはどうかを知りたくてこのトピックを選んだ。日本のアニメや映画で見た男子と女子の役割が現実にはどうかをこのプロジェクトで調べたいと思う。そして、私が今住んでいるアメリカの性役割とどう違うかを比べて見たい。この文では、日本人カップルとアメリカ人カップルの性役割を結婚する前と、結婚した後に分けて述べたい。日本の場合、結婚する前と後のどちらとも性役割がちゃんと区別されている一方、アメリカはデートする時には性役割が別になかったけど、結婚した後はもっと日本のような性役割ができた。それでも、結論としては、日本のカップルに比べてアメリカのカップルがもっと男女平等だ。

### 2. 日本とアメリカのカップルの性役割はどう違うか？

#### 2. 1. デートする時の日本のカップルの性役割はどうか？

日本のカップルはまず、デートをする前に、「告白」という手順をふむ。告白は普通、男性が好きになった女性に恋する気持ちを伝えることだった。でも今の時代には、女性が好きな男性に告白することもある。それが特に変なことではない。そして、告白をした二人はカップルになって、デートの約束を作って行く。デートの時は普通、男性がデートの計画を作って、女性はその計画を楽しむ。デート代も普通男性が払うことになっていて、2014年の11月に実行されたフレッシューズの調査によると、社会人女性258人が考えた男性が負担すべきデート代は年上の場合平均71.0%、同年齢の場合平均60.5%、年下の場合平均54.0%だった。でも、料理みたいな伝統的に女性らしい活動はデートする時も女性の責任になっている。例えば、カップルでピクニックに行ったら、女性がお弁当を作って来る。こんなデート代と料理に関わる性役割は、クラスのライティングアシスタントのコナーズさんとクラスに来た日本人ゲストのペテックさんにも確認ができた。そして、日本には性別によって役割が違うカップルの記念日もある。バレンタインデーは西洋ではカップルがお互いにチョコレートを交換する日だけど、日本の場合、女性が好きな男性にチョコレートをあげる日になっている。その返しに、男性は毎年3月14日にあるホワイトデーに自分が好きな女性にチョコレートをあげる。

## 2. 2. 結婚した日本のカップルの性役割はどうか？

結婚した日本のカップルはデートする時よりも厳しい性役割に束縛される。今の日本には変わって行っているけど、まだ儒教の男性中心的な考え方が残っている。そんな伝統的な儒教の考え方によると、夫は外で働くべきで、妻は家を守るべきだ。それで、男性は会社で仕事をする事で社会に貢献し、女性は家で夫と子供の世話をすることで社会に貢献する。その上に、日本の大変な仕事文化は男性が家で過ごせる時間を奪って、女性の家事負担を増やす。実際に、2007年の男女共同参画会議の調査によると、男性は平均30分くらいしか家事・育児・介護などに時間をかけなかった。この統計は共働きをしている家庭も含んでいる数値で、共働きが増えている今の時代は確かに女性の負担が重いそうだ。

## 2. 3. デートする時のアメリカのカップルの性役割はどうか？

日本とは違って、アメリカのカップルは付き合う過程に特別な手順がない。そして、「デート」のことも日本と違って付き合っている相手とすることに限りなく、恋人候補と軽い食事や映画に行くこともデートと言い。それで、デートを何回か続けるうちに好きな気持ちが分かってきたら正式にカップルになる。デートの形態も日本のより自由だ。アメリカのデートは、最初は日本のように出会いの約束と色々なことをする計画で始まるが、デートの回数が増えたら計画をしないでカップルが二人とも暇な時間を一緒に過ごすことがデートになる。デート代もアメリカの場合、初デートは男性が払うことが多いが、付き合いが続けるとわりかんにすることが普通だ。そんな自由なデート文化はクラスに来た日本人ゲストの長谷川さんも気づいた。長谷川さんによると、アメリカの男性は関心がある女性に誘う時、日本の男性とは違って迷いが無い。このアメリカの男性の特性からアメリカ人がデートをカジュアルにすることを見られる。

## 2. 4. 結婚したアメリカのカップルの性役割はどうか？

結婚したアメリカのカップルはもっと旧来的な性役割を持っている。日本のように、アメリカも男性が働いて、女性が家を守る家庭が多い。そして、日本のように、最近一人で家族を養うことが難しくなって、共働きをする家庭も増えて来た。でも、日本とは違って、アメリカの男性は家事や育児に参加する比率が高い。アメリカの労働統計局の2014年報告書によると、アメリカの男性は65.1%、女性は83%が家事に時間をかけた。家事にかけた時間は男性が平均2.11時間、女性は平均2.57時間だった。育児の場合、男性は16.3%、女性は25.6%が育児に時間をかけたので、その時間は男性が平均1.58時間、女性が平均2.17時間だった。この統計からみると、アメリカの性役割は日本よりずいぶん性平等だと思う。その上に、最近のアメリカには女性だけが働いて、男性は家を守る家庭も増えている。ピューリサーチセンターの分析によると、18歳未満の子供がいる家庭の中でお母さんだけ、またはお母さんが大部分の収入を得る家庭の比率は40.4%だった。でも、ロサンゼルスタイムズの記事によると、まだアメリカに残っている性役割の固定観念のせいで、旧来的に男らしくない性役割をしている男性への眼差しがよくないそうだ。

### 3. おわりに

今まで日本とアメリカのカップルの性役割を結婚する前と結婚した後に画して述べた。日本の場合、デートをする時は男性がデート代を払うべきとか、女性は料理を作って来るべきなどの性役割がある。それに比べてアメリカのカップルはデートをする時、最初の何回は男性がデート代を払うけど、のちには二人でわりかんにする。デートの約束もアメリカのカップルは特別に計画をしないで二人が暇だったらカジュアルに会うことがデートになる。では、結婚した後のカップルの性役割はどうかと言えば、両国のカップルとももっと旧来的な性役割を持つになる。まず、日本は夫が外で働くべきで、妻は家を守るべきだと言う儒教的な考え方が強い。だから、日本には男性だけが外で働いて、女性は専業主婦である家庭が多い。でも、最近は夫の収入だけで生活ができない場合、共働きをする家庭も増えた。その一方、アメリカの結婚したカップルも日本のように夫が働いて、妻が家で家事をする家庭が多いが、最近は共働きを超えて女性が生活費の大部分を得る家庭が増えた。それはたぶん、アメリカの男性が日本の男性より家事や育児に参加する比率と時間が多いからできることだと思う。結論として、日本とアメリカのカップルの性役割は似ていることもあるが、違うところが多いと思う。そして、その違いはもっと性平等的なアメリカの文化の影響だと思う。でも、アメリカの社会もまだ「男らしくない」性役割をしている男性を変な目で見える問題を持っている。私はアメリカのように性役割に束縛されないようにしようことはいいと思うが、本当に性役割の固定観念がなくなるためには皆の努力が必要だと思う。

## 参考文献

- Japan Powered (2014) 「Dating and Marriage in Japan」  
<http://www.japanpowered.com/japan-culture/dating-marriage-japan> (2016年3月12日アクセス)
- Back to Japan (2011) 「Japanese Dating Culture」  
<https://backtojapan.wordpress.com/2011/08/07/japanese-dating-culture/> (2016年3月12日アクセス)
- マイナビ (2014) 「女性に聞いた、デート代は男性が全額払うべき? 「時間を作った女性へのマナー」 「払ってもらおう分自分を磨いている」」  
<https://gakumado.mynavi.jp/freshers/articles/12451> (2016年3月12日アクセス)
- Japan Powered (2014) 「Gender Roles of Women in Modern Japan」  
<http://www.japanpowered.com/japan-culture/gender-roles-women-modern-japan>  
(2016年3月12日アクセス)
- 男女共同参画会議 (2007) 「「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向報告」  
[http://www.gender.go.jp/kaigi/danjo\\_kaigi/siry/pdf/ka27-9.pdf](http://www.gender.go.jp/kaigi/danjo_kaigi/siry/pdf/ka27-9.pdf) (2016年3月12日アクセス)
- Listn.me (2015) 「日本とアメリカでのデート習慣の違いはあるの?」  
<http://listn.me/20150610/3659/> (2016年3月12日アクセス)
- Bureau of Labor Statistics (2015) 「American Time Use Survey - 2014 Results」  
[http://www.bls.gov/news.release/archives/atus\\_06242015.pdf](http://www.bls.gov/news.release/archives/atus_06242015.pdf) (2016年4月3日アクセス)
- Pew Research Center (2013) 「Breadwinner Moms」  
<http://www.pewsocialtrends.org/2013/05/29/breadwinner-moms/> (2016年4月3日アクセス)
- Los Angeles Times (2013) 「‘Men are Stuck’ in gender roles, data suggest」  
<http://articles.latimes.com/2013/dec/26/local/la-me-one-way-gender-revolution-20131227> (2016年4月3日アクセス)